

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 8 月 12 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675900106
法人名	社会福祉法人 桃蹊会
事業所名	グループホーム サンライト
所在地	鹿児島県霧島市牧園町高千穂3617番地640 (電話) 0995-78-2320
自己評価作成日	平成25年6月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年8月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

霧島の自然に囲まれた環境の中にグループホームがあります。ホーム母体となっている福祉法人の介護保険関連施設、福祉施設、医療法人、病院などが同敷地内にあり相互関連しあっています。桃蹊会の運営理念である「あいさつと声かけは福祉の原点である」を基本に入居者様、家族、職員が信頼できる関係作りに取り組んでいます。ホームは一つの家族であると入居者・職員がお互いに支えあい支援して毎日過ごしています。2か月ごとの運営推進会議にもご家族の皆様も多数参加して頂き、ホームの行事等、ご協力頂いています。今後も地域交流にも力を入れて取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業者は社会福祉法人が運営する介護事業等のグループの一つである。敷地内にグループの医療機関や障害者支援施設・介護老人福祉施設等が隣接している。緊急時対応の医療のバックアップ態勢も整備されている。
- ・周辺には小学校やスーパーマーケット・美容院・観光施設・レストランなどがあり、買い物の際に挨拶や会話を楽しむなど、ホームと地域との交流が行われている。
- ・事業所として「まちかど介護相談所」を開設して、認知症対策や介護支援の情報発信の場となっている。
- ・災害対策については、定期的な訓練と安全対策の設備がなされている。具体的な注意事項等についても、運営推進委員会での助言をもとに運営に活かしている。
- ・運営者や管理者は、職員を育てることに力を入れ、特に研修等への参加などを奨励している。職員はケア対応等のさらなる向上に意欲的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	障害があっても一個人として尊重して本人が喜ぶサービスの提供ができるように考え、自分たちの理念を確認しながら、取り組んでいる。毎朝、全員で唱和している。	地域との関連性を重視した独自の理念を作り、ホール等に掲示している。朝礼時に唱和し、申し送りやミーティング等で話し合い、具体的なケアの実践について広く理念の共有を図っている。朝の挨拶を大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の理美容院に出かけている。ドライブで近くのスーパーで買い物をしたりする。又文化祭を福祉法人で行う際、地域の方との交流ができています。	散歩や買い物、理美容院に出かけたり、地域の人達との挨拶や会話をしている。また、法人主催の文化祭やホームの行事等でも地域住民を招待している。託児所や小・中学校との交流、高校生の研修も受け入れている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	グループホームへの見学案内又近くの小学校との交流会や託児所との交流会で認知症の高齢者とのかかわりが出来るようにしている。まちかど介護相談所の開設や管理者がキャラバンメイトとしての活動で認知症サポーターの養成の活動に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回運営推進会議に利用者家族や地域の代表者、市町村、包括支援センターの出席者にサービス状況報告しそこで、意見をききサービスに生かしている。</p>	<p>会議は、家族や地域代表者・行政職員等の参加を得て、事業所の状況や地域行事への参加・消防訓練・外部評価等の報告を行い、現在取り組んでいる内容についても意見を交換している。消防署職員から、救急車対応などのアドバイスをもらったりして、運営に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>2か月に1回運営推進会議に利用者家族や地域の代表者、市町村、地域包括支援センターの出席者にサービス状況報告しそこで、意見をききサービスに生かしている。地域密着型連合会に所属して市町村との連携で活動している。</p>	<p>市の担当者とは行政窓口で相談したり、運営推進会議で情報を交換してアドバイスをもらうなど、日頃から連携関係ができています。市主催の研修会などにも、積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束ゼロをめざし、職員全体で取り組んでいる。具体的な行為を正しく理解しており、身体拘束をしないケアをめざしている。</p>	<p>法人内で行われる身体拘束廃止に関する研修に参加し、マニュアルを基本に職員の共有認識を図っている。昼間は玄関の施錠をせずに、外出希望の利用者には、さりげない対応と見守りを行い、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待に関しては管理者職員とも理解している。自分がされて嫌なことは言わない・しない等無理や介護を強いられたいしないように充分注意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>後見人制度を利用されている方もおり、学ぶ機会もある。グループホーム協議会で行った研修に参加してから、内部研修を行って職員へ周知した。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は家族に説明し重要事項説明書にて理解していただくように心がけている。遠方の方への入居後の説明が不十分にならないように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者の家族が面会時に、入居者の不満やご家族の不安など職員へ気軽に話せるように、日頃の状況を報告するなど職員から話しかけるようにしている。御意見箱を設置している。</p>	<p>利用者には日頃から、何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意している。家族には満足度調査を書いてもらったり、連絡帳を活用している。面会時にも意見や要望等を出してもらうようにしている。出された事項は施設長に報告し、さらに、職員で話し合い、運営に反映するように心がけている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>グループホーム独自の職員会議での意見や要望がある場合は会議録や伺い用紙にて上申している。</p>	<p>代表者や管理者は、職員の意見や提案を聞く機会を設け、その反映を図るよう心がけている。コミュニケーションを図るよう努めているので、就業環境の整備やサービスの質の確保に繋がっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員会議や常日頃顔を合わせたときに職員に向けての励ましの声かけをしたり資格が取れるよう、勤務調整や情報提供を行っている。資格取得時にか資格手当等の支給</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部での研修は職員が勤務内に順番に参加できるようにしている。研修を受けた職員が他の職員に研修内容を伝達する内部研修も行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>始良・伊佐地区のグループホーム協議会に所属して研修や交流会に参加する機会がある。職員間の交流がある。地域密着型事業者連合会にも所属していて職員間の交流を通じてお互いに学ぶ機会を持っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに入居する前に面談したり、ホームを見学してもらう中で、ご本人が一番困っていることを聞いたり様子で感じたりして話を良く聞けるよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談・申し込みに来られた際家族の困っていること、ご本人に対してどのように思っているのか。又、利用されるまでの本人の状態や生活歴を知ることが出来るよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族がご本人の気持ちを理解してグループホームを利用されるのか、ご本人の気持ちに沿ったサービス提供が出来るように心掛けている。入居前に見学に来ていただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の家事の手伝いや、エプロンの日に入居者皆様と参加して食事を作る機会や梅干し、ラッキョウを漬ける際の下ごしらえなど色々教えて頂きながら作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を頂きながら行事や誕生会、運営推進会議など行っている。誕生会は個別で行っている為当日、ご家族に参加をお願いしている。ご本人の要望があれば、ご家族をお願いして、家族との交流を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	暑中見舞いや年賀状で馴染みの方へ連絡したり、買い物支援やドライブなど入居者が過ごしていた場所に近い環境へ出かけていく。おうちに残してきた飼い猫に会いにいたり本人の大切にしているものを大事にしている。	行きつけの理美容院や温泉などへ出かけたり、友人知人の訪問の際にはお茶を出すなどして、馴染みの関係が継続できるように支援している。家族の協力を得て、外食や墓参にでかけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂やリビングでの過ごし方を気の合う同士で過ごしていけるように配慮したりして、お互いに支えあえるように職員が工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他の施設へ入居されても職員が見舞いに出かけたり、ご家族が遊びにいらして下さったりしている。退所後の施設への面会など		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の要望や今困っていること等日常の様子や言葉の中から把握できるように努めている。なんでも気軽に話して頂けるように工夫をしている。	家族や関係者からの情報を得ながら、日々の関わりの中で観察し、言葉や表情などから思いや意向の把握に努め、その都度記録している。また、職員間の情報を共有して本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際はご家族よりこれまでの暮らしについて話を伺い、必要時にご利用されていた事業所に情報を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル測定で全身状態の把握をして、本人のペースで過ごして頂くようにしている。朝礼で夜間の様子等申し送りをしている。朝のあいさつ時本人の様子を観察できる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にご家族との話し合いで、何が一番して欲しいことや要望を聞き計画に反映できるように努めている。職員も積極的に意見を聞きケアに生かしているようにしている。	本人や家族の意向を汲み取った上で、担当者を中心に介護計画を作成している。カンファレンスやモニタリングは1ヶ月毎に実施し見直している。状況が変化したときは現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に記入しているご本人の様子がわかるように心掛けている。本人の話した言葉等で気持ちが分かるように記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じ敷地内に病院や老人保健施設があり、身体状況に応じ病院受診や認知の状態の変化・要介護度などで特老等入居者様にあつた居場所の検討を話し合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容は地域へ出かけていく、ご本人が希望するところへ出かけていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同敷地内のかかりつけ医に体調不良時受診している、眼科・歯科は往診等のサービスを受けられるようにしている。遠方への受診はご家族の協力も得ている。皮膚科受診など	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が、継続できるように支援している。主治医や協力医療機関と連携を取りながら適切な医療が行われている。また、皮膚科などは、家族の協力も得て受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり同敷地内の病院の看護師、老健の看護師に相談し適切な受診看護が出来る環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師の情報提供やホームの看護サマリーなど本人の日常の様子が分かるようにしている、又入院中は様子伺いに行ったりと医師・看護師より本人の様子を聞く事が出来るよう関係作りが出来ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応や救急蘇生法など年2回の防災訓練で研修できるようにしており、ホーム内での研修も行っている。認知症や身体機能の重度化した場合はその状態にあった施設等のなども家族と話し合っている。	入居時に、重度化や終末期について事業所が取り得る対応を、本人と家族に説明し、共通理解している。また、状況変化に従って、繰り返し家族の意思を確認して、医療機関と連携を図り、職員全員が、その方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練に全職員が参加できるようにしている。消防署の指導のもと救急蘇生法も訓練をしたりホーム内での内部研修も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に全職員が参加できるようにしている。防災訓練に地域の方へも協力を依頼している。自動火災報知機やスプリンクラー設置等設備も完了した。	年2回、消防署の立会いのもと、昼夜間想定避難訓練を実施している。地震時の対応マニュアルも整備され、敷地内の同法人事業所職員や地域住民との協力体制もできている。スプリンクラー等の防災設備も設置されている。災害時の備蓄もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや態度に注意しながら対応を行っている。その日その時の状態を観察し対応を行うようにしている。	利用者の人格を尊重するとともに、浴室の暖簾等、プライバシーを保持する言葉かけや対応に留意している。トイレ誘導時のさりげない支援も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のやり方を見てから声かけし希望を伺うようにしている。また入居者様が自分で自己決定できるよう声かけ・口調に注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常より家族に自宅での過ごし方を聞き、興味を示されたらそれに沿って支援を行い、個々の体調や希望に合わせている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に入居者の希望される理美容室へ行くようにしており、起床時や入浴後は髪を櫛で自身で梳いて頂いたりしている。衣類も本人の好みを聞き選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを声に出して読み上げたり、料理の内容を説明するなどして食事に楽しみを持って頂けるよう工夫している。魚嫌いの方へは肉や卵での対応と献立の材料にもこころがけている。	利用者の希望に添った献立を工夫して提供している。週2回は、「エプロンの日」として職員と一緒に料理を作るようにしている。また、一人ひとりの豊富な経験を活かし、梅干しなども作っている。さらに、行事食などで食事が楽しみなものになるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取、食事とも摂取量をチェックし摂取量が少ない時には管理栄養士・医師に報告し代替食品（高カロリー栄養食）とうの使用を検討するなどして対応している。量や固さも個人に合わせ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回毎食後に、利用者につき添い入居者の方の状況に応じて介助・見守りで口腔ケアを行っている。入れ歯の方は夜間預かり消毒を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご自分でできることはして頂き不潔行為等ないように、排泄パターンに合わせて時間ごとに声かけを行う等の支援をしている。	個々の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄を大切にしている。おむつを減らす取り組みと排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認が取れないときは、職員間で連絡を密にして、運動、水分補給を促し、腹部マッサージを行う等の支援を行っている。毎日の排便があるように心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の希望を聞きお湯加減は調節している。体調に合わせて対応している。基本は2日に1回の入浴だが希望者は毎日入浴も行っている。	個々人の希望に添った入浴ができるように支援している。入浴を拒む人にも、職員間で連携し、風呂の温度調整やタイミングをみながら状況改善に努めている。家族の協力で温泉に行くこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や家具の配置に気をつけて安眠できるよう気を配る。不眠が見られた際は、暖かい飲み物を勧めたり話し相手になる等して対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から定期薬の説明書を頂いて確認できるようにしている。変更があった場合は口頭と連絡帳の両方で確認し、職員全員が共有できるようにしている。症状の変化時は記録・報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクや軽作業など本人に確認を取りながら、参加して頂き本人の好まれる活動を勧めて気分転換を図って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ドライブや敷地内の散歩をして頂いている理美容室や買い物等の地域の方とのふれあいも支援している。	日常的には、ホームの広い敷地内の散歩や戸外の近隣の店で買い物の支援をしている。希望によっては、自宅訪問へのドライブなどを行っている。年間計画を立てて花見や遠足にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の日に近辺のスーパーで利用者の方にも買い物して頂いており、ご本人も大変喜ばれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話はあまりされる事はないが年賀や暑中見舞い等のやり取りはしておられる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員や入居者の折られた折り紙で作った作品や季節の物を飾り、風呂場の温泉のれん等で楽しく過ごして頂けるよう支援している。室温も声かけしながら調節しており、湿度も空気清浄機や加湿器などを利用し快適に過ごして頂けるようにしている。	共用の空間は、換気や採光・温度・湿度に配慮し、清潔で明るい。廊下の壁には、利用者の作品や季節行事の写真等が展示されている。広い畳の部屋や長椅子もあり、くつろげる場所になっている。浴室の暖簾にも心配りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでもご自分の椅子を用意して頂き、居間から庭が見え、のんびり過ごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持ってきていただいたり、整理整頓、片付けも入居者で行う等して、本人の希望に沿って居心地良く過ごせるよう工夫している。	整理ダンスや座椅子・机・写真等、馴染のものが持ち込まれ、広い窓から庭が見え、居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下に手すりが設置してあり、安全に歩行できるようにしてある。トイレの場所が分かる様張り紙等にて工夫してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない